

こいつを見つけた時、真っ先に思い浮かんだのは「やばい、またルイに怒られる！」だった。

沖縄修学旅行最後の夜、生徒のみんなは各ご家庭にお邪魔して民泊をしている。教員だけで泊まったホテルでの夕食を済ませた後、今日も星がきれいかなあと一人で外へ出てみた（こんなに優雅な修学旅行があって本当に良いのだろうか…）。この日は異様に暖かい。夜でもロント1枚で十分だった。相変わらずオオコウモリが頭上をバサバサ飛んでいるし、気温が高いからか、カタツムリやヤスデもたくさんいる。何の気なしに足元を照らしながら歩いていると、目の前を1匹の小さなカエルが横切った。リュウキュウカジカガエルだ！決して珍しい種類ではないが、沖縄本島初心者のぼくは初めて見た。見た目は西表島で見たヤエヤマカジカガエルとほぼ同じ。「カエルに出会えてラッキー」と思いながら近寄ってしゃがみこみ、ふとすぐ横の草むらをライトで照らしたとき、黒紫色の細長いものが見えて、心臓が止まりそうになった。はじめは頭が隠れていたが、このサイズ、この色合い、まさか！まさか！！「え？！嘘でしょ？！マジか！！」軽くパニックに陥りながら、そいつの頭部を確認する。枯葉をそっとどかしてライトで照らしたとき、虹のように輝く頭が現れ、タカチホヘビと確信！うわあああああ！あこがれのタカチホ！輝きが美しすぎる！じつは去年、巳年のうちに見つけないと思って、結構本気で東京西部の森でタカチホを探していたのだが（雨降る夜の森へ一人で何度もかよった）、ことごとく惨敗。今一番出会いたいヘビだった。沖縄本島で出会ったこのヘビは、正確にはアマミタカチホといい、本州のタカチホヘビとは近縁だが別種だ。夜行性の小さなヘビで、ミミズを専門に食べる。いずれにしても非常に珍しい種類で、修学旅行で、しかもホテルの目の前を軽く散歩したくらいで見つけていい類のヘビではない。「狙っていないときの方が見つかる」というのは生物探しの“あるある”なのだが、まさか修学旅行中とは…。

ぼくは以前から、生徒のいないときに限って珍しい生き物を見つけてしまうことが多く、西表島でよくルイに怒られた。アマミタカチホの件は修学旅行中は隠していたが、翌週学校で白状し、「また先生だけ…ズルい！ぐぬぬぬ」とやはりルイに怒られた。



アマミタカチホのサイズ感 最大でも60cmほどの比較的小さめなヘビ。これは幼体なのでさらに小さめ。乾燥や熱に非常に弱い種のため、あまりベタベタ触らない方が良い。サイズ感を写すために、少しだけ触らせてもらい、すぐ逃がした。

鱗の拡大 他のヘビと違い鱗の間がスカスカで皮膚が露出しているため、乾燥に弱く、土中で生活している。それ故、見つけにくい。



アマミタカチホ *Achalinus weneri* の幼蛇 1月16日 沖縄本島 頭部の色彩は光の当たり具合によって変わり、虹のような輝きを見せる。この輝きは幼体の方が強く、成体になると逆に腹部が黄色くなる。成体も見てみたいが、この輝きを見て発狂するほど嬉しい。奄美大島や沖縄本島などに生息。「タカチホ」という名は昆虫学者の高千穂宣麿に由来する。



頭部 あまりにも美しすぎていろんな角度から写真を撮りまくってしまった。半地中性的のため目が小さい。



舌を出すアマミタカチホ 観察していると頭を持ち上げることが多かった。ヘビ全般がそうだが、チョロチョロと舌を出しながら周囲の様子を感じ取っている。



リュウキュウカジカガエル このカエルがアマミタカチホの場所を教えてくれた！ありがたやー！（たまたまだが）。カエルが他の生物を教えてくれたことは、じつは過去にも猿江公園であった。（Vol.83「ツチグリ」参照）